



Windows および Linux 用 Sun™ Installation Assistant ユーザーズガイド

Sun Fire™ および Sun Blade™
シリーズサーバー用

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-6352-10
2008 年 7 月、改訂 A

以下の URL で本書に関するコメントを提出してください。<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記載されている製品を実現している技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されている1つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における1つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

米国政府の権利 - 商用ソフトウェア。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

この配布にはサードパーティで開発された素材が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、Sun Blade、Sun Fire、および Solaris のロゴマークは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における、Microsoft Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。Windows は、米国およびその他の国における、Microsoft Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

本サービスマニュアルで説明している製品および情報は、米国の輸出規制法の範囲であり、同法により規制されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律による規制を受ける可能性があります。核、ミサイル、化学生物兵器、または海洋における核のエンドユーザーは、直接または間接を問わず、厳しく禁じられています。米国が通称を禁止している国、または米国輸出除外リストに掲載されたエンティティ (拒否対象人物および特別に指定された国家を含むがこれに限定されない) に対する輸出または再輸出は、厳しく禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. Sun Installation Assistant の概要 1

Sun Installation Assistant について 1

SIA 機能とメリット 2

SIA 作業リスト 3

SIA メディアの入手およびアップデート 3

サポート対象オペレーティングシステム 4

開始前のご注意 4

次に行う作業 5

2. ローカルおよび遠隔 SIA メディアインストール 7

ローカルおよび遠隔メディアオプション 8

ローカルまたは遠隔メディアを使用した SIA による OS のインストール 9

- ▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用して SIA で OS をインストールする 9

3. PXE ベースの SIA インストール 23

PXE サーバーからの SIA のブート 24

- ▼ PXE ブートの SIA 設定ファイルを作成する 24

- ▼ PXE サーバーから SIA をブートする 25

SIA PXE ベースの Linux または Windows の無人インストールの実行	27
Linux の無人 SIA インストールの準備	27
Linux 用 SIA 無人状態ファイルの作成	28
Linux 用無人設定ファイルおよび PXE OS インストールイメージのセットアップ	31
Windows 2003 の無人 SIA インストールの準備	31
Windows 用 SIA 無人状態ファイルの作成	31
無人インストール用 SIA PXE ブートイメージのセットアップ	35
無人ネットワークインストールの進捗状況の監視	36
root および仮想アクセスのパスワードのセットアップ	36
システムコンソールの使用	37
仮想コンソールまたはセキュアシェル (SSH) 接続の使用	38
VNC ビューアの使用	38
▼ VNC ビューアを使用して、接続を確立する	38
▼ シリアルコンソールを使用して、接続を確立する	39
4. SIA のトラブルシューティング	41
エラーメッセージ	41
SIA インストールログファイル	42
無人インストールの問題のデバッグ	42
PXE イメージがブートしない	42
SIA ブートが開始された後に停止する	43
VNC パスワードが設定されない	44
A. USB フラッシュドライブでの SIA の使用	45
要件	45
ソフトウェアの入手	46
▼ syslinux および SIA ソフトウェアを入手する	46
USB フラッシュドライブの準備	47
▼ Windows XP システムで USB フラッシュドライブを準備する	47

- ▼ Linux (Red Hat/SUSE) システムで USB フラッシュドライブを準備する 48

BIOS パラメータの設定および SIA USB フラッシュドライブからのブート 49

- ▼ BIOS パラメータを設定して SIA USB フラッシュドライブからブートする 50

B. Sun Fire X4500 サーバーでの Linux ブートデバイスの特定 51

要件 51

Linux インストール時に Sun Fire X4500 でブートデバイスを特定する方法 51

- ▼ Linux インストール時に Sun Fire X4500 でブートデバイスを特定する 51

索引 55

はじめに

『Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』には、サポート対象のオペレーティングシステムを Sun Blade™ サーバーモジュールまたは Sun Fire™ ラックマウントサーバーにインストールする方法に関する詳細情報が記載されています。

このガイドは、コンピュータハードウェアのインストールに習熟しているシステムインストーラー担当者、およびさまざまなオペレーティングシステムのインストールおよび設定を実際に行なっているシステム管理者向けに記述されています。

関連製品のドキュメント、テクニカルサポート、またはトレーニングの詳細については、以下のセクションを参照してください。

- [vii ページの「関連ドキュメント」](#)
- [viii ページの「ドキュメント、サポート、およびトレーニング」](#)
- [viii ページの「コメントをお寄せください」](#)

関連ドキュメント

すべての Sun Blade および Sun Fire シリーズのドキュメントは、以下の Web サイトで入手可能です。

- Sun Blade モジュラーサーバーの場合:
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.srvr>
- Sun Fire サーバーの場合:
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/server.x64>

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Sun 機能	URL
ドキュメント	http://docs.sun.com/
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

コメントをお寄せください

SUN 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。例:

『Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』
部品番号 820-6352-10。

第1章

Sun Installation Assistant の概要

この章では、Sun Installation Assistant (SIA) 機能の概要について説明します。本章で説明するトピックは以下のとおりです。

- 1 ページの「Sun Installation Assistant について」
 - 2 ページの「SIA 機能とメリット」
 - 3 ページの「SIA 作業リスト」
 - 3 ページの「SIA メディアの入手およびアップデート」
 - 4 ページの「サポート対象オペレーティングシステム」
- 4 ページの「開始前のご注意」
- 5 ページの「次に行う作業」

Sun Installation Assistant について

Sun Installation Assistant (SIA) は、x64 Sun Fire および Sun Blade サーバーでの使用がサポートされているツールです。このツールは、サポートされている Linux および Microsoft Windows オペレーティングシステム (OS) のインストールを補助します。SIA を使用すれば、SIA メディアを起動してプロンプトに従うだけで、OS、適切なドライバ、および必要に応じて追加システムソフトウェアをインストールすることができます。

SIA は、OS のインストールプロセスを自動化するわけではありません。OS のインストール手順になお従う必要はありますが、システムハードウェアの目録処理、Sun がサポートする最新のデバイスドライバのダウンロード、および別のドライバ CD の作成を行う必要がなくなります。これらの作業は SIA によって自動的に実行されます。

サーバーのオペレーティングシステムのインストールを補助する SIA を使用しない場合は、オペレーティングシステムの手動インストールについて、サーバーに付属の以下のドキュメントを参照してください。

- サーバーのインストールガイド。
- サーバーのオペレーティングシステムインストールガイド。

SIA 機能とメリット

SIA によって、以下の機能とメリットがもたらされます。

- サーバーに接続されたローカルドライブ (CD/DVD または USB フラッシュドライブ) またはリダイレクトされた遠隔ネットワークドライブ (仮想 CD-ROM または ISO イメージ) でのブート可能 SIA メディアによるブート、または PXE ネットワークブート。
- プラットフォームハードウェアおよび取り付けられているオプションカードの特定。
- サポート対象のサーバーでの、システム BIOS およびデバイスファームウェアアップグレード機能。アップグレードオプションは、サーバー固有です。
- オペレーティングシステムメディアおよびシステムに必要なサポートされているデバイスドライバの特定。SIA はオペレーティングシステムのソフトウェアを提供しないことに注意してください。オペレーティングシステムのソフトウェアは、SIA インストール時にお客様が提供する必要があります。
- プラットフォームでサポートされているブート可能メディア (ハードディスク、コンパクトフラッシュ) での補助付きオペレーティングシステムインストール。
- 必要に応じて、Sun によってサポートされた最新の OS レベルのデバイスドライバおよびシステムに必要なシステムソフトウェアのインストール。
- PXE ベースの SIA を使用した、無人オペレーティングシステムインストール。
- インストール時にエラーまたは予期しない状態が発生した場合に表示される直感的なエラーメッセージ。
- 必要に応じて、新規にインストールしたサーバーの /root (Linux の場合) または C:\ (Windows の場合) にすぐに利用できるイベントログファイル。

SIA 作業リスト

補助付き OS インストールに加えて、SIA は、さまざまなサーバー固有の作業でサーバーの保守に役立ちます。下表は、「Task Selection (作業選択)」ダイアログ画面から SIA で実行可能な作業のリストです。ただし、作業リストは、サーバーによって異なるため、すべてのサーバーですべての作業が利用可能なわけではありません。

作業	説明
オペレーティングシステムのインストール	サポート対象バージョンの Microsoft Windows および Linux の補助付きオペレーティングシステムのインストール。
SP/BIOS ファームウェアのアップグレード	サービスプロセッサファームウェアおよびシステム BIOS をアップデートします。存在しているバージョンおよびアップグレードで使用可能なバージョンを表示します。テストされるバージョンレベルが一致するようにこれらのコンポーネントが一括してアップグレードされます。新しいバージョンを使用するには再起動が必要です。
HBA ファームウェアのアップグレード	サーバーの統合 HBA (ホストバスアダプタ) のファームウェアをアップデートします。存在しているバージョンおよびアップグレードで使用可能なバージョンを表示します。新しいバージョンを使用するには、サーバーの再起動が必要です。
エクспанダファームウェアのアップグレード	サーバーの統合ディスクエクспанダのファームウェアをアップデートします。存在しているバージョンおよびアップグレードで使用可能なバージョンを表示します。新しいバージョンを使用するには、サーバーの再起動が必要です。
SP 復旧	この機能を使用して、アクセスできないか、破損データを表示しているサービスプロセッサを回復することができ、回復されたバージョンを使用するには、サーバーの再起動が必要です。

SIA メディアの入手およびアップデート

Sun Installation Assistant の CD/DVD は、x64 プロセッサアーキテクチャーをサポートするほとんどの新しい Sun 製サーバーに付属しています。サポートされている Sun サーバープラットフォームの全リストについては、以下の URL の SIA 情報ページを参照してください。

<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>

また、以下の URL の Sun Download ページから、Sun Installation Assistant の ISO CD イメージをダウンロードできます。

<http://www.sun.com/download/index.jsp>

SIA プログラムのアップデートは、SIA の Remote Update (リモートアップデート) オプションを使用することにより、SIA インストール時に簡単に取得できます。

サポート対象オペレーティングシステム

SIA は、サポート対象の Microsoft Windows および Linux のインストールで使用可能です。サポート対象のオペレーティングシステムのリストは、以下の Sun ソフトウェア Web サイトでご利用になれます。

<http://www.sun.com/os.jsp>

開始前のご注意

SIA および OS インストールメディアを使用するには、以下の前提条件が満たされている必要があります。

- Sun 提供の SIA 配布メディア (CD または ISO CD-ROM イメージ) が必要です。SIA 配布メディアは、各 Sun システムで標準装備されています。SIA ISO CD-ROM イメージは、以下の URL でダウンロードできます。
<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>
- 仮想のリダイレクトされた CD または ISO CD-ROM イメージからインストールを実行する場合は、サーバーのサービスプロセッサ *Lights Out Manager* (統合 LOM または組み込み LOM) の知識または経験が必要です。
- サポート対象のオペレーティングシステムの配布メディア (CD または ISO CD-ROM イメージ) が必要です。詳細については、<http://www.sun.com/os.jsp> を参照してください。
- Microsoft Windows のインストールの場合は、SIA でのインストール時にプロダクトキー情報が必要です。
- サーバーに LSI または Adaptec 統合 RAID コントローラが付属していて、ブートドライブを RAID 構成の一部に含める場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に、(サーバーのブート時にアクセス可能な) コントローラの設定ユーティリティを使用して、RAID ボリュームを構成する必要があります。
- サーバーの「ご使用にあたって」で、Sun Installation Assistant に関する最新の情報およびアップデートを確認します。サーバーの「ご使用にあたって」は、<http://docs.sun.com> で表示またはダウンロードすることができます。

次に行う作業

- ローカルまたは遠隔メディアから SIA Innsuto-ru を実行する (第 2 章を参照)。
- PXE SIA インストールを実行する (第 3 章を参照)。
- SIA インストールのトラブルシューティングを行う (第 4 章を参照)。

第2章

ローカルおよび遠隔 SIA メディアインストール

この章では、Sun Installation Assistant (SIA) を使用して、サポート対象の Microsoft Windows または Linux オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。この章に記載された手順では、ローカルまたは遠隔ブートメディアを使用してインストールプログラムを実行していることを前提としています。

Sun Installation Assistant は、Sun IO オプションカードおよびその他のシステムハードウェアによって認定された OS レベルのデバイスドライバを提供します。Sun Installation Assistant を使用すると、オペレーティングシステムをインストールする前に、OS レベルのデバイスドライバを入手して、別のメディアにそのドライバを用意する必要がなくなります。

注 – SIA によって提供されてインストールされるシステムおよび OS レベルのデバイスドライバの全リストについては、SIA CD/DVD README.html ファイルおよび「ご使用にあたって」を参照してください。

Sun Installation Assistant CD/DVD は、各 Sun サーバーに同梱されています。Sun Installation Assistant の ISO CD-ROM イメージを、以下の Sun ダウンロードページの「x64 Servers & Workstations」リンクからダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/download/index.jsp>

本章のトピックは以下のとおりです。

- [8 ページの「ローカルおよび遠隔メディアオプション」](#)
- [9 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した SIA による OS のインストール」](#)
 - [9 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用して SIA で OS をインストールする」](#)

ローカルおよび遠隔メディアオプション

このセクションでは、Sun Installation Assistant (SIA) を使用して、サポート対象の x64 Sun Fire または Sun Blade サーバーに Windows または Linux をインストールするさまざまな方法について説明します。サーバータイプおよびインストール環境に最適な方法を選択してください。

表 2-1 Sun Fire および Sun Blade サーバーの SIA インストール方法

Sun Fire サーバーでサポートされた方法	Sun Blade サーバーでサポートされた方法
<p>SIA は、以下のいずれかの方法を使用して、サポート対象の Sun Fire サーバーにオペレーティングシステムをインストールすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• SIA CD/DVD または SIA ソフトウェアを用意した USB フラッシュドライブを使用して、サーバーでローカルインストール。サーバーの CD/DVD ドライブの CD/DVD ドライブから、またはサーバーのいずれかの USB ポートに直接接続された、SIA ソフトウェアを用意した USB フラッシュドライブで (付録 A の説明を参照)、SIA をブートします。• ILOM 遠隔 CD-ROM 機能および遠隔コンソールアプリケーションを使用した遠隔インストール。この方法によって、仮想 CD-ROM から SIA をブートできます。LOM 遠隔コンソールについては、ご使用のサーバーのサービスプロセッサ <i>Lights Out Manager</i> (統合 LOM または組み込み LOM) のドキュメントを参照してください。LOM には複数のバージョンがあるため、ご使用のサーバーにインストールされたバージョンのガイドを必ず参照してください。• PXE ネットワークブートイメージでネットワークを介した遠隔インストール。この方法を使用すると、インストール時間を大幅に低減することができます。PXE ネットワークブートの設定に関する手順については、第 3 章を参照してください。	<p>サポート対象の Sun Blade サーバーモジュールの SIA インストール方法は、Sun Fire サーバーで提供されているものと似ていますが、ブートセットアップが異なります。Sun Blade サーバーモジュールでは、SIA は、以下のいずれかの方法を使用してオペレーティングシステムをインストールできます。</p> <ul style="list-style-type: none">• SIA CD/DVD または SIA ソフトウェアを用意した USB フラッシュドライブを使用して、サーバーでローカルインストール。サーバーモジュールには、内蔵 CD/DVD ドライブはありません。CD/DVD ドライブまたは、サーバーモジュールの USB ドングルポートに直接接続された、SIA ソフトウェアを用意した USB フラッシュドライブ (付録 A の説明を参照) から、SIA をブートします。この方法では、使用している <i>Blade</i> サーバーのインストールドキュメントに説明されているように、キーボードとマウスで VGA コンソールをセットアップしていることを前提としています。• シャーシの CMM を使用して、またはサーバーモジュールサービスプロセッサで直接、サーバーモジュール遠隔コンソールを使用した遠隔インストール。この方法によって、仮想 CD-ROM から SIA をブートできます。LOM 遠隔コンソールについては、使用しているサーバーのサービスプロセッサ <i>Lights Out Manager</i> (統合 LOM または組み込み LOM) のドキュメントを参照してください。LOM には複数のバージョンがあるため、使用しているサーバーにインストールされたバージョンのガイドを必ず参照してください。• PXE ネットワークブートイメージでネットワークを介した遠隔インストール。サーバーモジュールのネットワークポートは、シャーシの背面に搭載された、ネットワークエクスペンスモジュール (NEM) または PCI Express Module (PCI EM) で提供されます。NEM および PCI EM ポートがサーバーモジュールにどのように対応しているのかについては、シャーシのドキュメントを参照してください。PXE ネットワークブートの設定に関する手順については、第 3 章を参照してください。

ローカルまたは遠隔メディアを使用した SIA による OS のインストール

SIA インストールプログラムは、システムハードウェアの特定、お客様が提供したメディアからのオペレーティングシステムインストールの生成、および Sun 認定のデバイスドライバをインストールすることによるインストールの完了といった初期ステップをナビゲートするグラフィカルユーザーインターフェースを提供します。

注 – サーバーに Sun によってサポートされた LSI または Adaptec 統合 RAID コントローラが付属していて、ブートドライブを RAID 構成の一部に含める場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に、(サーバーのブート時にアクセス可能な) コントローラのセットアップユーティリティを使用して、RAID ボリュームを構成する必要があります。

▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用して SIA で OS をインストールする

ローカルまたは遠隔メディアから SIA および OS インストールをブートするには、以下の手順に従います。

注 – 以下の手順のダイアログスクリーンショット例は、参考用として提供されています。各ダイアログで表示される情報は、使用しているサーバーモデルによって異なることがあります。

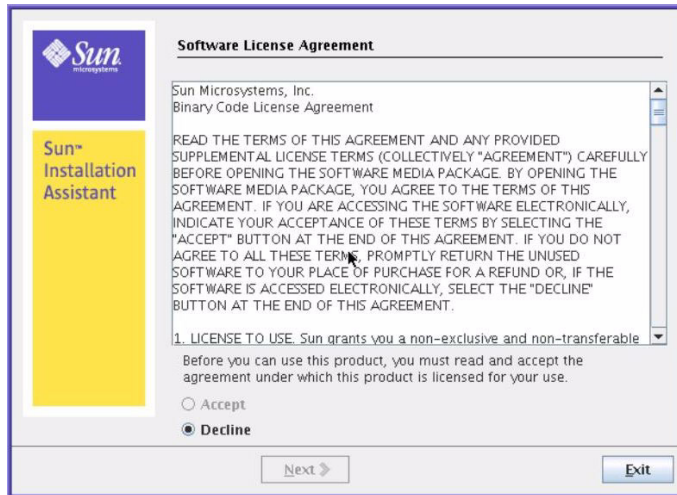
1. 前のセクションで説明したいずれかのインストール方法を使用して SIA を起動します。
 - SIA CD をサーバーの CD/DVD ドライブに挿入して、サーバーの電源を入れるか再起動します。
 - サーバーのいずれかの USB ポートに直接、SIA ソフトウェアが用意された USB フラッシュドライブを挿入します。付録 A で説明されているように、サーバーをリダイレクトして、USB フラッシュドライブからブートします。
 - KVMs で、サーバーのサービスプロセッサ (*Lights Out Manager*) にログインし、「Remote Control Launch Redirection (遠隔コントロール起動リダイレクション)」機能を使用して、サーバーを、SIA CD イメージが入った仮想 CD-ROM にリダイレクトします。サーバーを再起動します。必ず、仮想 CD-ROM からサーバーがブートするようにしてください (通常は、サーバーブート時に F8 メニューを使用して設定)。

- PXE ブートを使用して Sun Installation Assistant イメージをロードする場合 (Linux のみ) は、第 3 章に進んでください。

注 – 以下の手順では、ローカル CD/DVD ドライブアクセスを前提としています。SIA ソフトウェアを用意したローカル USB フラッシュドライブを使用する場合、または CD-ROM リダイレクションを使用して KVMs 経由で OS を遠隔インストールする場合は、手順をそれに従って読み替えてください。

SIA が起動すると、さまざまな起動メッセージが表示されてから、「Software License Agreement (ソフトウェア使用許諾契約)」ダイアログが表示されます。

2. 「Software License Agreement (ソフトウェア使用許諾契約)」ダイアログ (以下の例を参照) で、以下を行います。
 - a. 使用許諾契約を読み、テキストウィンドウの下部までスクロールして、「Accept (受諾)」ラジオボタンを有効にします。



- b. 「Accept (受諾)」をクリックして、使用許諾契約を受け入れてから、「Next (次へ)」をクリックして続行します。

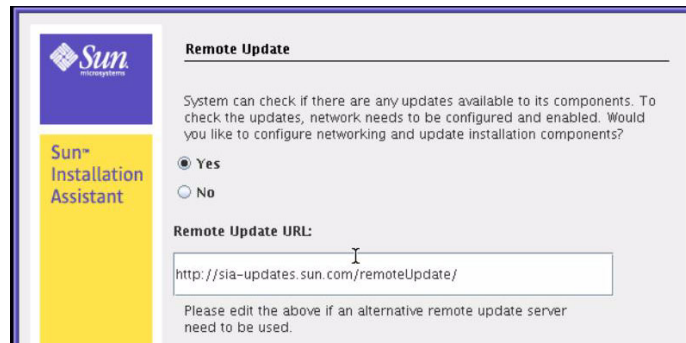
「SIA Welcome (SIA ようこそ)」ダイアログが表示され、Sun Installation Assistant が実行する作業が特定されます。

3. 「SIA Welcome (SIA ようこそ)」ダイアログで、「Next (次へ)」をクリックしてインストールを続行します。

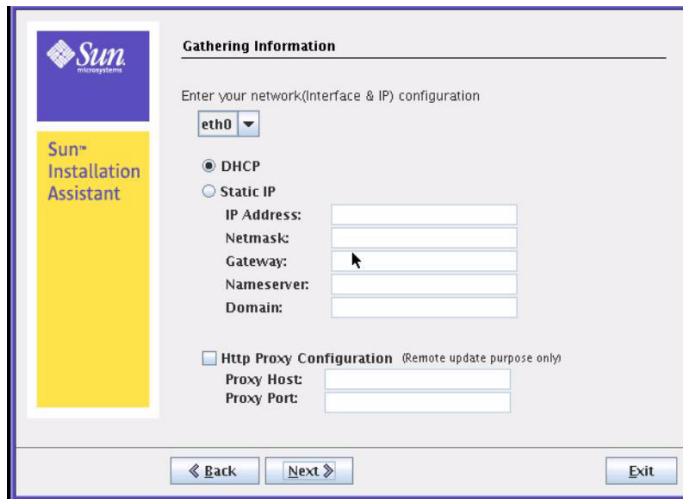


「Remote Update (遠隔アップデート)」ダイアログが表示されます。

4. 「Remote Update (遠隔アップデート)」ダイアログでは、SIA プログラムのアップデートがダウンロードできるかどうかを確認することを選択できます。これらのアップデートには、新しいデバイスとシステムのドライバ、およびその他の問題の修正が含まれている可能性があります。アップデートをダウンロードするには、サーバーにネットワーク接続が確立されている必要があります。



- 遠隔アップデートを拒否する場合は、「No (いいえ)」をクリックしてから、「Next (次へ)」をクリックして、手順 5 に進みます。
- または
- SIA プログラムの遠隔アップデートを実行する場合は、以下を実行します。
 - a. 「Yes (はい)」、「Next (次へ)」を順にクリックして、遠隔アップデートに進みます。
- 「Gathering Information (情報の収集)」ダイアログが表示されます。



b. 「Gathering Information (情報の収集)」ダイアログで、Sun SIA アップデート Web サイトへのネットワーク接続を可能にする、適切なネットワーク構成設定を指定します。例:

i. アクティブなネットワークインタフェースを選択します (例: eth0)。

これによって、アップデートイメージにアクセスするために使用されるネットワークインタフェースが有効になります。サーバーに複数のネットワークカードが搭載されている場合には、アップデートイメージファイルが存在するホストにアクセスできる、ネットワーク接続されたインタフェースを必ず使用してください。

ii. 設定方法を選択します (DHCP または静的 IP)。

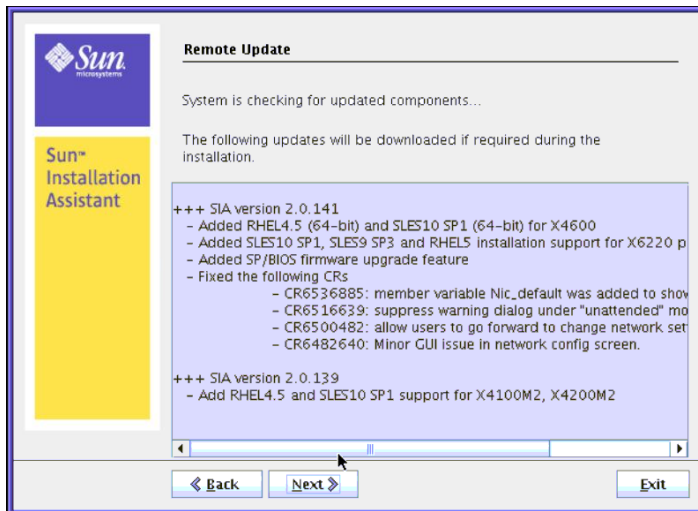
静的な方法を選択した場合は、必要な情報 (IP アドレス、ゲートウェイなど) を入力します。

iii. 外部の Web サイトへのアクセスに HTTP プロキシが必要な場合は、次のようなプロキシ情報を入力します。

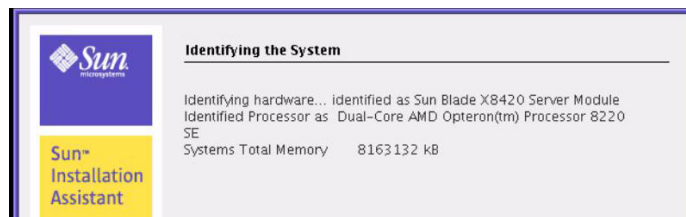
webproxy.mycompany.com

iv. 「Next (次へ)」をクリックして、Sun SIA 遠隔アップデート Web サイトへの接続を確立します。

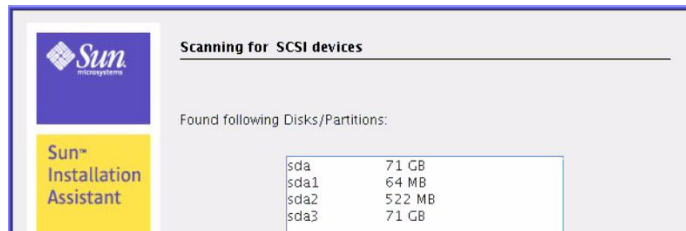
遠隔アップデート処理で、SIA プログラムのアップデートがないか、チェックされます (下の例を参照)。アップデートが使用可能であった場合、アップデートされたコンポーネントが表示されます。



- v. 「Next (次へ)」をクリックして、手順 5 に進みます。
「Identifying the System (システムの特定)」ダイアログが表示されます。
5. 「Identifying the System (システムの特定)」ダイアログで、適切なハードウェアがインストールされていて、オペレーティングシステムに十分なメモリーが搭載されていることを確認してから、「Next (次へ)」をクリックして SIA インストールを続行します。



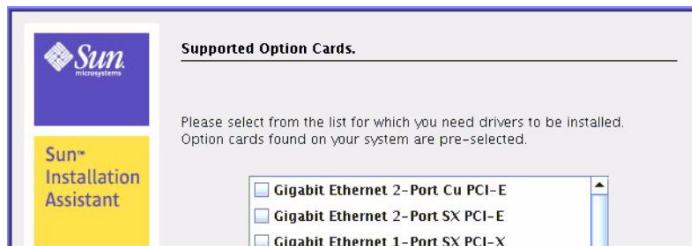
- SIA は、ディスクドライブがないか、システムをスキャンして、「Scanning for SCSI Devices (SCSI デバイスのスキャン)」ダイアログでそのリストを表示します。
6. 「Scanning for SCSI Devices (SCSI デバイスのスキャン)」ダイアログで、SIA によって特定されたディスクが表示されます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。



「Supported Option Cards (サポート対象のオプションカード)」ダイアログが表示されます。

- 「Supported Option Cards (サポート対象のオプションカード)」ダイアログで、SIA がドライバをインストールする対象のオプションカードを選択します。完了後、「Next (次へ)」をクリックします。

SIA は、検出したシステムに取り付けられたオプションカードを自動選択します。ほかのオプションカードのドライバをインストールする場合は、手動で選択する必要があります。



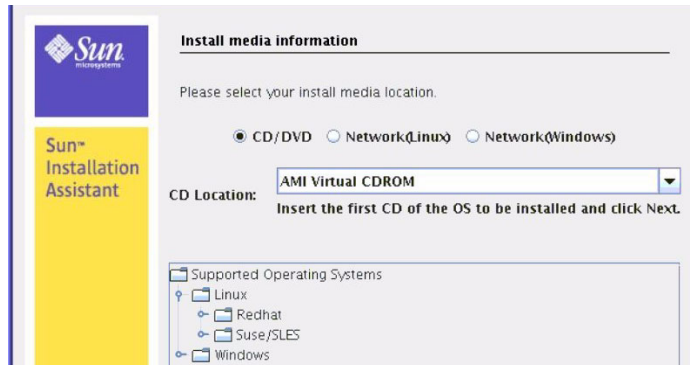
- サーバーで追加の作業がサポートされている場合は、「Task Selection (作業選択)」ダイアログが表示されます。

このダイアログは、使用しているサーバーで OS インストール以外の作業がサポートされている場合にのみ表示されます。このダイアログでは、使用しているサーバーでサポートされている作業オプションのみがリストされます。たとえば、リストには、オペレーティングシステムのインストール、サーバー BIOS/SP ファームウェアアップグレードなどの作業が含まれていることがあります。



- このダイアログが表示された場合は、作業を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。画面の手順に従って、作業を完了します。完了後、手順 9 に進みます。
- このダイアログが表示されなかった場合は、手順 9 に進みます。

9. オペレーティングシステムのインストール処理が開始されると、「Install Media Information (インストールメディア情報)」ダイアログが表示されます。



このダイアログでは、OS インストールメディアの場所を指定する必要があります。次のいずれかを選択します。

- **CD** – このオプションによって、以下から OS ソースをインストールできます。
 - ローカル CD/DVD、または
 - リダイレクトされた CD/DVD または ISO CD-ROM イメージ
- **Network** – このオプションによって、ネットワーク共有から OS ソースをインストールできます。

注 – Linux SIA インストールのみ。 SIA は、SIA プログラムのブートのために前に使用した CD/DVD ROM デバイス以外のデバイスを使用を選択した場合、Linux インストールメディアを認識できないことがあります。そのため、SIA プログラムのブートに使用したのと同じデバイスに Linux OS メディアを挿入する必要があることがあります。

使用している OS ソースの場所に適した以下の手順に従います。

- **ローカル CD/DVD からのインストール。**
 - ローカル CD/DVD ドライブから OS をインストールするには、以下を実行します。
 - i. 「Install Media Information (インストールメディア情報)」ダイアログで、「CD」をクリックしてから、「CD Location (CD の場所)」ドロップダウンリストからサーバーの CD/DVD ドライブを選択します。
 - ii. このドライブから SIA CD/DVD を取り出してから、オペレーティングシステム配布 CD 1 をドライブに挿入します。
 - iii. 「Install Media Information (インストールメディア情報)」ダイアログで、「Next (次へ)」をクリックして続行します。
「Identifying Distribution (配布の特定)」ダイアログが表示されます。

iv. **手順 10**に進みます。

または

- **リダイレクトされた CD/DVD または ISO CD-ROM イメージからのインストール。**

Sun SP LOM 遠隔コンソールを使用して、リダイレクトされた CD/DVD またはリダイレクトされた ISO CD-ROM イメージから OS をインストールする場合には、以下を実行します。

- i. SIA の「Install Media Information (インストールメディア情報)」ダイアログで、「CD」をクリックします。
- ii. 「CD Location (CD の場所)」ドロップダウンリストから仮想 CD-ROM を選択します。
- iii. サーバーのサービスプロセッサの (*Lights Out Manager*) 遠隔コンソールで、オペレーティングシステムのインストールメディア (CD-ROM または CD-ROM イメージ) を、以下のいずれかの方法でリダイレクトします。

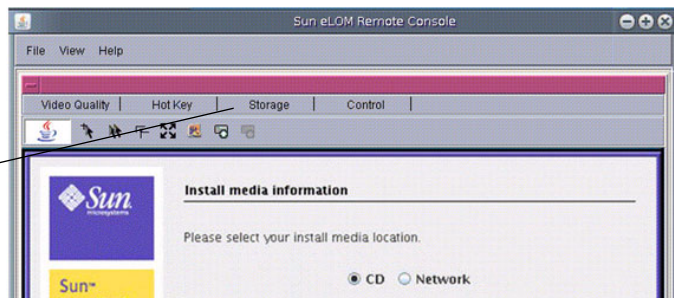
例えば、この手順のステップ 1 のブート元に従って、以下を行います。

- CD/DVD ドライブから SIA をブートした場合は、このドライブから SIA CD を取り出して、オペレーティングシステムの CD 1 をそのドライブに挿入します。サービスプロセッサの LOM 遠隔コンソールで、適切なメニューで CD-ROM オプションを選択します (組み込みおよび統合 LOM の例について、以下の図を参照)。
- ISO CD-ROM イメージから SIA をブートした場合は、適切なメニューで CD-ROM イメージの選択を解除することによって、サービスプロセッサの LOM 遠隔コンソールから SIA ISO CD-ROM イメージをアンマウントします (組み込みおよび統合 LOM の例については下図を参照)。次に、CD-ROM イメージを選択して、ISO OS CD-ROM イメージの場所を指定します。

ILOM 遠隔コンソールで、「Devices (デバイス)」メニューを使用して CD または ISO-CD イメージなどのデバイスをマウントおよびアンマウントします。



eLOM 遠隔コンソールで、「Storage (ストレージ)」メニューを使用して CD または ISO-CD イメージなどのデバイスをマウント、アンマウント、または変更します。



- iv. SIA の「Install Media Information (インストールメディア情報)」ダイアログで、「Next (次へ)」をクリックして続行します。
「Identifying Distribution (配布の特定)」ダイアログが表示されます。

v. 手順 10 に進みます。

または

■ ネットワーク共有からのインストール (Linux または Windows)。

ネットワーク共有から OS をインストールする場合は、「Install Media Information (インストールメディア情報)」ダイアログで以下を実行します。

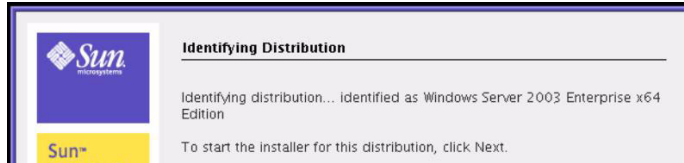
- i. SIA の「Install Media Information (インストールメディア情報)」ダイアログで、「Network (ネットワーク)」をクリックします (Linux または Windows)。
- ii. アドレスバーで、メディアのネットワークアドレスを指定します。例:
`http://host.domainname/imagepath`
または
`http://ip.address/imagepath`
ここで、`http` は、`ftp` または `nfs` にすることもできます。複数のイメージ (CD1、CD1 など) で使用可能な OS の場合、追加のアドレスフィールドが使用可能です。
- iii. 「Next (次へ)」をクリックして続行します。

「Identifying Distribution (配布の特定)」ダイアログが表示されます。

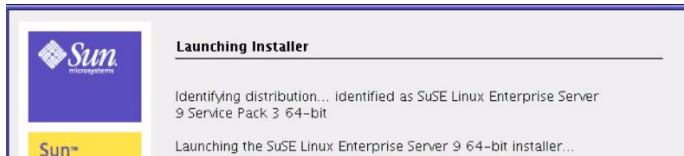
iv. 手順 10 に進みます。

10. 「Identifying Distribution (配布の特定)」ダイアログで、ダイアログに表示された情報を確認してから、「Next (次へ)」をクリックして OS インストーラを開始します。

Windows の例:



Linux の例:



SIA が検出した OS 配布によって、上記ダイアログ例のいずれかが表示されます。以下の手順から、お客様のインストールに最適なものを選択します。

- **Windows** をインストールする場合には、「Windows Product Key Information (Windows プロダクトキー情報)」ダイアログが表示されます。手順 11 に進みます。
- **Linux SLES 9 (SP3 以降)** を、リダイレクトされた CD または ISO イメージからインストールする場合は、「Service Pack Information (サービスパック情報)」ダイアログが表示されます。手順 12 に進みます。
- **Linux** を、**Sun Fire X4500** にインストールする場合は、ブートドライブを指定して正常なインストールを行うために、OS 固有のステップを実行する必要があります。付録 B に進みます。
- **SLES 9 (SP3 以降) 以外の Linux バージョン**をインストールする場合は、「Installing Additional Software (追加ソフトウェアのインストール)」ダイアログが表示されます。手順 13 に進みます。

11. (Windows インストールのみ) 「Product Key Information (プロダクトキー情報)」ダイアログで、必要な情報を指定してから「Next (次へ)」をクリックし、オペレーティングシステムのインストールを開始します。

The screenshot shows the 'Product Key Information' dialog box in the Sun Installation Assistant. The dialog has a title bar that says 'Please fill in the following fields and click Next to start install.' The fields include: Product Key (XXXXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX), Timezone (GMT-05:00 Eastern Time (US & Canada)), Host Name (SunBlade), User Name (Valued Customer), Organization Name (Valued Company), Member of (Workgroup selected, WORKGROUP), Administrator Password (masked with asterisks), Confirm password (masked with asterisks), and Windows Partition Size (30 GB, Min 8GB and Max 67GB). There are 'Back', 'Next', and 'Exit' buttons at the bottom.

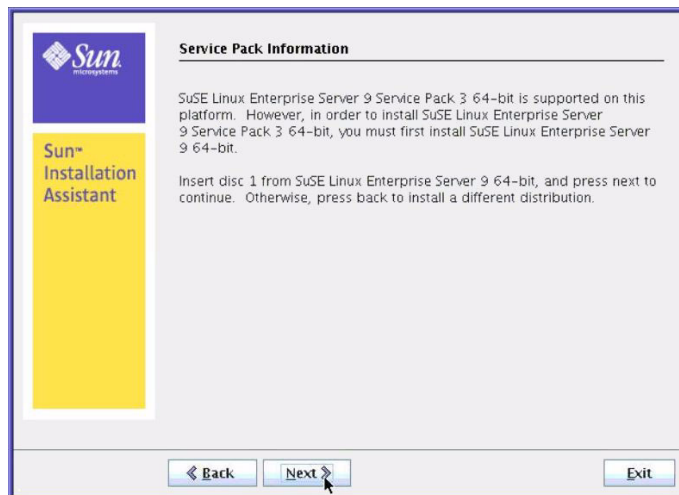
「Product Key (プロダクトキー)」ダイアログの下部にステータスバーが表示され、ディスクパーティションおよび必要な Windows OS レベルのデバイスとシステムドライバのインストールの構成ステータスが示されます。

The screenshot shows the status bar of the Sun Installation Assistant. It displays 'Windows Partition Size: 30 GB, Min 8GB and Max 67GB.' and a progress bar for 'Configuring Windows operating system partition...'. There are 'Back', 'Next', and 'Exit' buttons at the bottom.

The screenshot shows the status bar of the Sun Installation Assistant. It displays 'Windows Partition Size: 30 GB, Min 8GB and Max 67GB.' and a progress bar for 'Copying Windows files from media: 4% completed'. There are 'Back', 'Next', and 'Exit' buttons at the bottom.

オペレーティングシステムのプレインストール環境が完成します。「Installing Additional Software (追加ソフトウェアのインストール)」ダイアログが表示されます。手順 13 に進みます。

12. (CD または ISO CD-ROM イメージからの SLES 9-SP のインストールのみ)
SLES 9 のサービスパック (SP3 以降) のダイアログで、ダイアログの手順に従ってから、「Next (次へ)」をクリックして SLES 9 インストーラプログラムを続行します。



SLES 9 ベースインストールが完了したあとに、プラットフォームでサポートされる最小 SLES 9 サービスパックに SLES 9 を更新する必要があります。プロンプトに従ってインストールを完了します。以下のサーバー固有の例外に注意してください。

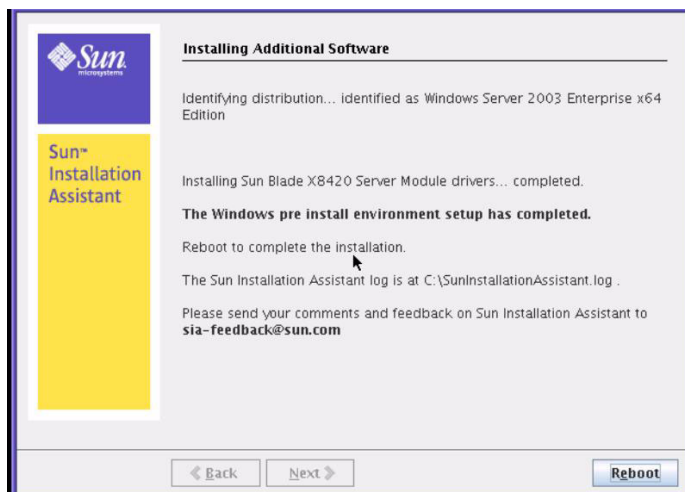
- Sun Blade 8000 サーバーモジュールの場合は、「Optional NVIDIA Graphic Driver (オプションの NVIDIA グラフィックドライバ)」パッチをスキップします。

注 – SLES 9 インストーラアップデートダイアログで SLES 9 パッチ情報を指定する具体的な情報については、Novell の SLES 9 インストールドキュメントを参照してください。

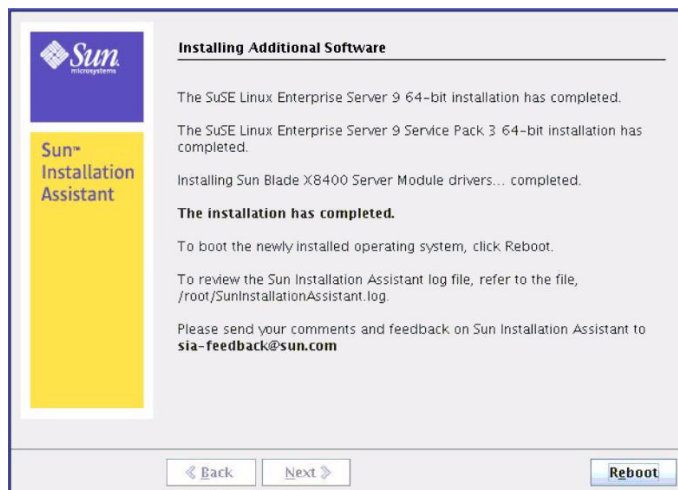
SLES 9 パッチのインストール後、SLES 9 インストーラプログラムが終了し、SIA の「Installing Additional Software (追加ソフトウェアのインストール)」ダイアログが表示されます。手順 13 に進みます。

13. 「Installing Additional Software (追加ソフトウェアのインストール)」ダイアログで、SIA は、必要に応じて追加のプラットフォーム固有のドライバをインストールします。表示された情報を確認します。

Windows の例:



Linux の例:



14. SIA メディアを取り出して、「Reboot (再起動)」ボタンをクリックします。

サーバーが再起動して、オペレーティングシステムのインストールが続行します。遠隔アップデートを選択した場合は、SIA は、Web から最新のファイルを取得します。そうではない場合は、OS 配布メディアのファイルを使用します。画面上の手順に従い、操作を促すプロンプトが表示されたら再起動を実行します。

15. OS インストールの完了後に、以下を実行します。

■ **Linux のインストールの場合:**

- SIA によってインストールされなかった、サーバーの追加のドライバおよびユーティリティをインストールして設定します。これによって、インストールしたサーバーコンポーネントでサポートされた機能が提供されず (例えば、追加ドライバには、ACPI、ビデオ、ネットワーク、大容量記憶装置などが含まれることがあります)。
- サーバーの OS インストールおよび「ご使用にあたって」ドキュメントで説明されているように、サーバーのツールとドライバの (リソース) CD で利用可能な Sun 固有のオプションソフトウェアをインストールします。
- Linux オペレーティングシステムのベンダーの Web サイトから、最新の Linux オペレーティングシステムのアップデートおよび修正をダウンロードして、インストールします。

■ **Windows のインストールの場合:**

- SIA によってインストールされなかったドライバをインストールします (例えば、追加ドライバには、ACPI、ビデオ、ネットワーク、大容量記憶装置などが含まれることがあります)。SIA は、これらのドライバをターゲットのハードドライブ (例: c:\drivers) に自動的にコピーしますが、自動的にインストールはしません。これは、Windows のデバイスマネージャを使用して行うことができます。
- サーバーの OS インストールおよび「ご使用にあたって」ドキュメントで説明されているように、サーバーのツールとドライバの (リソース) CD で利用可能な Sun 固有のオプションソフトウェアをインストールします。
- EM (エクスプレスモジュール) または NEM (ネットワークエクスプレスモジュール) ハードウェアを取り付けた Sun Blade モジュラーシステムの場合は、ドライバをダウンロードして、インストールします。これらのドライバを入手してインストールする方法の詳細については、以下の Web サイト「Sun Blade Modular Systems - I/O Modules」を参照してください。
<http://www.sun.com/servers/blades/optioncards.jsp>

PXE ベースの SIA インストール

この章では、Preboot Execution Environment (PXE) から Sun Installation Assistant (SIA) をブートして、サーバーでの作業を自動で実行させる方法について説明します。

SIA は、Linux ベースのプログラムであり、Linux ベースの PXE サーバーからブート可能です。Linux ベースの PXE サーバーから SIA をブートすると、SIA によって、サーバーのサービスプロセッサ (*Lights Out Manager*) を使用して、ローカルまたは遠隔メディアから、Linux または Microsoft Windows をインストールすることができます。また、Linux ベースの PXE サーバーから SIA をブートすると、SIA によって、ネットワークでアクセス可能な配布メディア、またはお客様が用意した PXE インストールイメージ (Linux OS インストールの場合) から、Linux または Windows オペレーティングシステムの無人インストールを実行することも選択できます。

本章で説明するトピックは以下のとおりです。

- 24 ページの「PXE サーバーからの SIA のブート」
 - 24 ページの「PXE ブートの SIA 設定ファイルを作成する」
 - 25 ページの「PXE サーバーから SIA をブートする」
- 27 ページの「SIA PXE ベースの Linux または Windows の無人インストールの実行」
 - 28 ページの「Linux 用 SIA 無人状態ファイルの作成」
 - 31 ページの「Windows 用 SIA 無人状態ファイルの作成」
- 36 ページの「無人ネットワークインストールの進捗状況の監視」
 - 36 ページの「root および仮想アクセスのパスワードのセットアップ」
 - 37 ページの「システムコンソールの使用」
 - 38 ページの「VNC ビューアを使用して、接続を確立する」
 - 39 ページの「シリアルコンソールを使用して、接続を確立する」

PXE サーバーからの SIA のブート

PXE ブートサーバーから Sun Installation Assistant をブートするには、以下の手順を実行します。

- 24 ページの「PXE ブートの SIA 設定ファイルを作成する」
- 25 ページの「PXE サーバーから SIA をブートする」

注 - SIA プログラムファイルは、Linux ベースであり、Linux PXE サーバーからブートするように設定する必要があります。ただし、Linux ベースの PXE サーバーからブートされた SIA プログラムは、サーバーの *Lights Out Manager (LOM)* を使用した、物理メディアまたは ISO CD イメージからの Windows または Linux のインストールのブートもサポートしています。

▼ PXE ブートの SIA 設定ファイルを作成する

1. Linux ベースの PXE サーバーネットワークインストールをサポートするようにネットワークを事前構成します。

PXE サーバーの設定方法の詳細については、Linux 配布ドキュメントを参照してください。

2. PXE Linux ディレクトリで、SIA イメージ用の新規サブディレクトリを作成します。

例えば、Linux システムで、以下のコマンド行を使用して、`suninstall` イメージのサブディレクトリを作成します。

```
# mkdir /home/pxeboot/suninstall
```

3. SIA CD/DVD を Linux ベースの PXE サーバーのハードディスクドライブに挿入して、CD/DVD をマウントします。

4. `vmlinuz` (ブート可能 Linux カーネル) および `initrd` (初期 RAM ディスク) ファイルを、SIA CD/DVD からステップ 2 で作成した `suninstall` サブディレクトリにコピーします。

マウントされる CD イメージには正しいパスを使用してください。この例では、`/mnt/cdrom` を使用します。

```
# cp /mnt/cdrom/boot/isolinux/vmlinuz /home/pxeboot/suninstall
# cp /mnt/cdrom/boot/isolinux/initrd.img /home/pxeboot/suninstall
```


5. エディタを使用して、以下の SIA 参照を、/home/pxeboot ディレクトリに格納された pxelinux.cfg/default ファイルに追加します。

```
default suninstall
label suninstall
kernel suninstall/vmlinuz
append initrd=suninstall/initrd.img vga=0x314 ramdisk_size=700000
root=/dev/ram netboot
```

注 - append initrd= から netboot までの append コマンド行は、改行なしの連続した文字列として入力してください。


6. ファイルを保存してから、SIA CD/DVD をハードドライブからアンマウントして取り外します。
7. SIA PXE イメージを PEX サーバーからブートするには、以下の手順で示されたステップに従います。

▼ PXE サーバーから SIA をブートする

以下の手順では、PXE Linux ベースのサーバーから SIA をブートするために実行する必要があります、初期ステップについて説明します。SIA がブートしてグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) が表示されてから、[9 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用して SIA で OS をインストールする」](#)の手順 (ステップ 3 から) に従うことによって、SIA インストールを完了することができます。

1. ターゲット Sun サーバーが、PE サーバーと同じネットワーク上に構成されていることを確認してから、Sun サーバーをリセットします。例:
 - サービスプロセッサ (*Lights Out Manager*) の遠隔コンソール Web インタフェースで、「Remote Control (遠隔コントロール)」->「Remote Power Control (遠隔電力コントロール)」をクリックしてから、「Reset (リセット)」を選択して、ホストサーバーをリセットします。または
 - サーバーのフロントパネルにある電力ボタンを (少しの間、1 秒) 押して電源を切断してから、電源ボタンを (少しの間、1 秒) 押してサーバーモジュールの電源を入れます。

BIOS 画面が表示されます。例を下に示します (使用しているサーバーの BIOS 画面はこれとは異なる可能性があります)。



```
www.ami.com
AMIBIOS (C) 2004 American Megatrends, Inc.
BIOS Build Version : 0A8JT100 Date: 10/29/07 15:12:24 Core: 08.00.12
CPU : Dual-Core AMD Opteron(tm) Processor 2220
Speed : 2.80 Ghz Count : 4
Socket0-Node0: DCT0 = 667 MHz, DCT1 = 667 MHz
Socket1-Node1: DCT0 = 667 MHz, DCT1 = 667 MHz
Sun Blade X6220 Server Module, 2 AMD North Bridges, Rev F3
1 Nvidia CK8-04 PRO SB, 1 Nvidia IO-4 Slave Bridge(s)
Board Serial Number : 1005LCB-0723ZG01A2
BMC Firmware Revision : 2.0.3.1; SP IP Address : 010.006.153.203
CPLD Revision : 5.0
Initializing USB Controllers .. Done.
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
4406MB OK

(C) American Megatrends, Inc.
```

ヒント – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

2. システムのブート時に、以下のいずれかを実行してネットワークブートを開始します。
 - プロンプトが出されたら、F12 キーを押して、検出された最初のネットワークブートデバイスからブートします。
 - プロンプトが出されたら、F8 を押して、ブートメニューを表示し、ネットワークブートデバイスを指定します。

ヒント – Sun Blade サーバーモジュールでは、(1) (「Please Select Boot Device (ブートデバイスの選択)」メニューにリストされた) PXE:Slot# とシャーシ上の物理 NEM または EM のスロット番号ラベルを一致させることによって、(2) (「Please Select Boot Device (ブートデバイスの選択)」メニューにリストされた) F# と NEM (ポート 0.0 から 9.0 および 0.1 から 9.1) または EM (ポート 0 または ポート 1) 上にある物理 NIC ポート番号ラベルを一致させることによって、PXE インタフェースブートデバイスを判断することができます。

ネットワークブートデバイスの指定後、システムは、DHCP PXE ブートサーバーから IP アドレスを取得しようとします。PXE サーバーの検出後、PXE ブートプロンプトが表示されます。

3. PXE ブートプロンプトで、Enter を押すか、以下を入力します。suninstall
SIA インストールイメージがサーバーにダウンロードされて、「Launching the Sun Installation Assistant (Sun Installation Assistant の起動中)」というダイアログが表示されます。

4. PXE サーバーから SIA をブートした後のインストールの進め方に関する詳細手順については、手順、9 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用して SIA で OS をインストールする」のステップ (ステップ 2 から) に従ってください。

SIA PXE ベースの Linux または Windows の無人インストールの実行

オペレーティングシステム (またはほかの SIA 作業) の SIA 無人インストールでは、ユーザーインタラクションが不要です。SIA v2.0.1 以降 では、サポート対象の Linux オペレーティングシステムの SIA PXE ベースの無人インストールを実行する機能が追加されています。SIA v2.1.0 以降 では、サポート対象の Windows オペレーティングシステムの SIA PXE ベースの無人インストールを実行する機能が追加されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。お客様のインストールに適用されるトピックを参照してください。

- 27 ページの「Linux の無人 SIA インストールの準備」
- 31 ページの「Windows 2003 の無人 SIA インストールの準備」
- 35 ページの「無人インストール用 SIA PXE ブートイメージのセットアップ」

Linux の無人 SIA インストールの準備

無人インストールをセットアップする基本ステップは、以下のとおりです。

- 28 ページの「Linux 用 SIA 無人状態ファイルの作成」
- 31 ページの「Linux 用無人設定ファイルおよび PXE OS インストールイメージのセットアップ」
- 35 ページの「無人インストール用 SIA PXE ブートイメージのセットアップ」

このセクションで示す手順では、以下を前提としています。

- RHEL または SLES Linux 無人インストールについてよく知っている。
- このセクションの手順を実行する前に、RHEL Kickstart ファイルまたは SLES AutoYaST ファイルを作成している。
- 以下のオプションで、RHEL Kickstart または SLES AutoYaST PXE イメージを構成しようと検討している。

- SIA によってインストールされない、サーバーの追加ドライバ。これによって、サーバーのインストールおよび「ご使用にあたって」ドキュメントで説明されているように、インストールされたサーバーコンポーネントでサポートされた一連の機能 (ACPI、ビデオ、ネットワーク、大容量記憶装置など) が提供されます。
- Linux ベンダーから入手可能な最新のオペレーティングシステムのインストールパッチ。
- 必要とされる SIA ディスプレイ解像度。SIA は、CD-ROM または PXE から、常に vga=0x314 でブートする必要があります。
- Kickstart または AutoYaST ファイルが、FTP、HTTP、または NFS サーバーでアクセスすることができる。

Linux 用 SIA 無人状態ファイルの作成

SIA 状態ファイルは、Linux オペレーティングシステムの無人インストール、およびその他の実行する SIA 作業 (BIOS/SP ファームウェアアップデート) を指示するテキストファイルです。

Linux 用 SIA 状態ファイル要件

SIA 状態ファイルの作成時には、以下の要件を考慮に入れてください。

- SIA が PE からブートすると、状態ファイルが、インストールする OS メディアの場所および転送プロトコルの手段 (FTP、NFS、または HTTP) を特定する必要があります。
- 状態ファイルでは、不要なスペースや句読点は一切使用できません。
- SIA 状態ファイルで指定された行は、(9 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用して SIA で OS をインストールする」で説明されている) インタクションバージョンの SIA インストールプログラムを実行した場合に表示されるステップに対応している必要があります。
- インストール場所は、(35 ページの「無人インストール用 SIA PXE ブートイメージのセットアップ」で説明されている) 設定ファイルでブート引数として指定する必要があります。

Linux 用 サンプル SIA 状態ファイル

Linux 用 SIA 状態ファイルは、以下のサンプルのようなものです。

注 – すべてのサーバーで、SIA 状態ファイルの `taskList` および `firmware` オプションがサポートされているわけではありません。これらのオプションがサポートされているかがわからない場合には、Sun ダウンロードサイトに記載された、使用しているサーバー用の SIA 機能リストを参照してください。

```

[STATE_BEGIN noname apit]
apit.unattended=true
apit.welcome.acceptlicense=true
apit.welcome.skipWelcome=true
apit.networking=true
apit.networkconfig.needNetwork=true
apit.networkconfig.useDHCP=true
apit.networkconfig.needProxy=false
apit.remoteUpdate=true
apit.remoteupdateURL=http://sia-updates.sun.com/remoteUpdate
apit.httpProxy=// my http proxy here
apit.osid.installMedia=networkLinux
apit.osid.installMethod=http, ftp or nfs
apit.osid.installLoc=PXE file URL
apit.osid.kickstart=configuration file URL
apit.taskList.selectedTask=SP/Bios Firmware Upgrade OR Operating
System Installation (下記の注を参照)
apit.firmware.spIP=n.n.n.n
apit.firmware.spPassword=changeme
[STATE_DONE noname apit]

```

インストール要件によっては、要件を満たすために、SIA 状態ファイル内の以下の行をカスタマイズする必要が生じる場合があります。

- 「apit.remoteUpdate=」に、SIA に SIA プログラムのアップデートをチェックさせるかどうかに関して、「true」または「false」を指定します。状態ファイルで、この変数は必須です。例:

```
apit.remoteUpdate=true
```

または

```
apit.remoteUpdate=false
```

- 「apit.remoteupdateURL=」に、遠隔アップデートサイトの場所を指定します。Sun SIA アップデート Web サイトの URL を入れます。apit.remoteUpdate=false を指定した場合は、この行は必要ありません。例:

```
apit.remoteupdateURL=http://sia-updates.sun.com/remoteUpdate
```

apit.remoteUpdate=false の場合は、この行 (remoteupdateURL) は不要です。

- 「apit.httpProxy=」に、遠隔アップデートサイトにアクセスするために必要な HTTP プロキシを指定します。apit.remoteUpdate=false を指定した場合や、リモートアップデートサイトへのアクセスに HTTP プロキシが必要ない場合は、この行は必要ありません。

- 「apit.osid.installMedia=」に、「CD」(OS 配布メディアが CD/DVD 上にある場合)または「networkLinux」(OS 配布メディアがネットワークからアクセスする ISO イメージファイルの場合)を指定します。例:

```
apit.osid.installMedia=CD
```

または

```
apit.osid.installMedia=networkLinux
```

注 - 「apit.osid.installMedia=」変数は、SIA ソフトウェアバージョン 2.1.0 で導入されました。それ以前のバージョンの SIA で使用する状態ファイルでは、この変数は使用しないでください。

- 「apit.osid.installMethod=」に、HTTP、FTP、または NFS を指定します。例:

```
apit.osid.installMethod=http
```

- 「apit.osid.installLoc=」に、インストールする OS の PXE ファイルの URL を指定します。例:

```
apit.osid.installLoc=http://path_to_install_image
```

- 「apit.osid.kickstart=」に、設定ファイルの URL を指定します。例:

```
apit.osid.kickstart=http://path_to_kickstart_file
```

- 「apit.taskList.selectedTask=」に、サービスプロセッサ/BIOS ファームウェアアップグレードを実行するのか、それともオペレーティングシステムのインストールを実行するのかを指定します。同時に両方の作業は実行できません。状態ファイルで、この変数は必須です。例:

```
apit.taskList.selectedTask=Operating System Installation
```

または

```
apit.taskList.selectedTask=SP/Bios Firmware Upgrade
```

注 - ファームウェアアップグレードオプションを使用するには、サーバーで SIA によるファームウェアアップグレードがサポートされている必要があります。無人ファームウェアアップグレードが有効になっていても、(アップグレードファームウェアイメージが、アップグレードするサーバー以前のものであるため)ターゲットサーバーでアップグレードが不要な場合、無人インストールはその時点で停止して、続行するにはユーザーの介入が必要になります。これを回避するには、アップグレードで使用するファームウェアイメージが、ターゲットサーバーにすでにインストールされているものより新しいことを確認してください。アップデートイメージのファームウェアバージョン (ビルド番号) は、README ファイルに記載されています。ターゲットサーバーのファームウェアバージョン (ビルド番号) は、サーバーのサービスプロセッサにログインして `version` コマンドを入力することによって表示することができます。

- 「apit.firmware.spIP=」に、サービスプロセッサの IP アドレスを指定します。ファームウェアアップグレードを実行する場合には必須です。例:
apit.firmware.spIP=10.6.188.66
- 「apit.firmware.spPasswd=」に、サービスプロセッサのパスワードを指定します。ファームウェアアップグレードを実行する場合には必須です。例:
apit.firmware.spPasswd=changeme

Linux 用無人設定ファイルおよび PXE OS インストールイメージのセットアップ

OS 用の無人設定ファイルおよび PXE インストールイメージをセットアップする場合は、無人設定ファイルおよび PXE インストールイメージの作成に関する、例えば以下の OS ドキュメントを参照してください。

- 以下の Novell AutoYaST の無人インストールに関するドキュメント
<http://www.novell.com>
- 以下の Red Hat の Kickstart の無人インストールに関するドキュメント
<http://www.redhat.com/docs>

完了後、35 ページの「無人インストール用 SIA PXE ブートイメージのセットアップ」に進みます。

Windows 2003 の無人 SIA インストールの準備

SIA ソフトウェアバージョン 2.1.0 以降では、SIA を PXE ブートして、Sun サーバーへの Windows 2003 Server の無人インストールを実行することができます。無人インストールをセットアップする基本ステップは、以下のとおりです。

- 31 ページの「Windows 用 SIA 無人状態ファイルの作成」
- 35 ページの「無人インストール用 SIA PXE ブートイメージのセットアップ」

Windows 用 SIA 無人状態ファイルの作成

SIA 状態ファイルは、Windows 2003 Server オペレーティングシステムの無人インストール、およびその他の実行する SIA 作業 (BIOS/SP ファームウェアアップデート) を指示するテキストファイルです。

Windows 用 SIA 状態ファイル要件

SIA 状態ファイルの作成時には、以下の要件を考慮に入れてください。

- SIA が PE からブートすると、状態ファイルが、インストールする OS メディアの場所および転送の手段 (FTP、NFS、または HTTP) を特定する必要があります。

- 状態ファイルでは、不要なスペースや句読点は一切使用できません。
- SIA 状態ファイルで指定された行は、(9 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用して SIA で OS をインストールする」で説明されている) インタラクショナルバージョンの SIA インストールプログラムを実行した場合に表示されるステップに対応している必要があります。

Windows 用 サンプル SIA 状態ファイル

Windows 用 SIA 状態ファイルは、以下のサンプルのようなものです。

注 – すべてのサーバーで、SIA 状態ファイルの `taskList` および `firmware` オプションがサポートされているわけではありません。これらのオプションがサポートされているかがわからない場合には、Sun ダウンロードサイトに記載された、使用しているサーバー用の SIA 機能リストを参照してください。

```
[STATE_BEGIN noname apit]
apit.unattended=true
apit.networking=true
apit.welcome.acceptlicense=true
apit.welcome.skipWelcome=true
apit.networkconfig.needNetwork=true
apit.networkconfig.useDHCP=true
apit.networkconfig.needProxy=false
apit.taskList.selectedTask=SP/Bios Firmware Upgrade OR Operating
System Installation (下記の注を参照)
apit.remoteUpdate=true
apit.remoteupdateURL=http://sia-updates.sun.com/remoteUpdate
apit.httpProxy=//my http proxy here
apit.osid.installMedia=networkWindows
apit.osid.installMethod=http, ftp or nfs
apit.osid.url1=Windows OS CD1 image file URL
apit.osid.url2=Windows OS CD2 image file URL
apit.windows.key=product-key
apit.windows.computerName=computername
apit.windows.orgName=organizationname
apit.windows.userName=username
apit.windows.adminPasswd=password
apit.windows.acceptEula=Yes
apit.firmware.spIP=n.n.n.n
apit.firmware.spPassword=changeme
[STATE_DONE noname apit]
```


インストール要件によっては、要件を満たすために、SIA 状態ファイル内の以下の行をカスタマイズする必要がある場合があります。

- 「apit.remoteUpdate=」に、SIA に SIA プログラムのアップデートをチェックさせるかどうかに関して、「true」または「false」を指定します。状態ファイルで、この変数は必須です。例:

```
apit.remoteUpdate=true
```

または

```
apit.remoteUpdate=false
```

- 「apit.remoteupdateURL=」に、遠隔アップデートサイトの場所を指定します。Sun SIA アップデート Web サイトの URL を入れます。apit.remoteUpdate=false を指定した場合は、この行は必要ありません。例:

```
apit.remoteupdateURL=http://sia-updates.sun.com/remoteUpdate
```

apit.remoteUpdate=false の場合は、この行 (remoteupdateURL) は不要です。

- 「apit.httpProxy=」に、遠隔アップデートサイトにアクセスするために必要な HTTP プロキシを指定します。apit.remoteUpdate=false を指定した場合や、リモートアップデートサイトへのアクセスに HTTP プロキシが必要ない場合は、この行は必要ありません。

- 「apit.osid.installMedia=」に、「CD」(OS 配布メディアが CD/DVD 上にある場合) または「networkWindows」(OS 配布メディアがネットワークからアクセスする ISO イメージファイルの場合) を指定します。例:

```
apit.osid.installMedia=CD
```

または

```
apit.osid.installMedia=networkWindows
```

- 「apit.osid.installMethod=」に、HTTP、FTP、または NFS を指定します。例:

```
apit.osid.installMethod=http
```

- 「apit.osid.url1 」および「 apit.osid.url2」には、(CD1 および CD2 の) Windows OS イメージファイルの URL を指定します。例:

```
apit.osid.url1=http://10.6.10.2/winiso/win2k3sp2/cd1.iso
```

```
apit.osid.url2=http://10.6.10.2/winiso/win2k3sp2/cd2.iso
```

- 「apit.taskList.selectedTask=」に、サービスプロセッサ/BIOS ファームウェアアップグレードを実行するのか、それともオペレーティングシステムのインストールを実行するのかを指定します。同時に両方の作業は実行できません。状態ファイルで、この変数は必須です。例:

```
apit.taskList.selectedTask=Operating System Installation
```

または

```
apit.taskList.selectedTask=SP/Bios Firmware Upgrade
```

注 - ファームウェアアップグレードオプションを使用するには、サーバーで *SIA* によるファームウェアアップグレードがサポートされている必要があります。無人ファームウェアアップグレードが有効になっていても、(アップグレードファームウェアイメージが、アップグレードするサーバー以前のものであるため) ターゲットサーバーでアップグレードが不要な場合、無人インストールはその時点で停止して、続行するにはユーザーの介入が必要になります。これを回避するには、アップグレードで使用するファームウェアイメージが、ターゲットサーバーにすでにインストールされているものより新しいことを確認してください。アップデートイメージのファームウェアバージョン (ビルド番号) は、**README** ファイルに記載されています。ターゲットサーバーのファームウェアバージョン (ビルド番号) は、サーバーのサービスプロセッサにログインして **version** コマンドを入力することによって表示することができます。

- 「apit.windows.key」に、ライセンスが供与されているバージョンの Windows で提供された Windows プロダクトキーを指定します。例：
`apit.windows.key=KYKC9-XBGFH-5XMR2-9WPJK-1JP0Q`
- 「apit.windows.computerName」に、OS をインストールするサーバーのコンピュータ名を指定します。例：
`apit.windows.computerName=servername`
- 「apit.windows.orgName」に、OS をインストールするサーバーに関連付けられた組織名を指定します。例：
`apit.windows.orgName=mycompanyname`
- 「apit.windows.userName」に、OS をインストールするサーバーの管理者ユーザー名を指定します。例：
`apit.windows.userName=adminuser1`
- 「apit.windows.adminPasswd」に、OS をインストールするサーバーの管理者パスワードを指定します。例：
`apit.windows.adminPasswd=changeme`
- 「apit.firmware.spIP=」に、サービスプロセッサの IP アドレスを指定します。ファームウェアアップグレードを実行する場合には必須です。例：
`apit.firmware.spIP=10.6.188.66`
- 「apit.firmware.spPasswd=」に、サービスプロセッサのパスワードを指定します。ファームウェアアップグレードを実行する場合には必須です。例：
`apit.firmware.spPasswd=changeme`

無人インストール用 SIA PXE ブートイメージのセットアップ

前のセクションで説明されているように無人インストールの準備ができれば、以下のステップに従って、PXE イメージをセットアップし、SIA をブートして無人インストールを実行します。

ヒント – SIA PXE ブートイメージのセットアップの詳細については、SIA CD/DVD の `/boot/isolinux/isolinux.cfg` ファイルにある PXE サンプルターゲットを参照してください。

1. SIA のネットワークインストールイメージを作成します (まだ作成していない場合)。
SIA PXE 設定ファイルの作成方法の詳細については、[24 ページの「PXE サーバーからの SIA のブート」](#) を参照してください。
2. エディタを使用して、以下の SIA 参照を、`/home/pxeboot` ディレクトリに格納された `pxelinux.cfg/default` ファイルに記載します。

```
default suninstall
label suninstall
kernel suninstall/vmlinuz
append initrd=suninstall/initrd.img vga=0x314 ramdisk_size=700000
root=/dev/ram0 splash=silent siaurl=http:URL for state file
```

注 – から `siaurl=` までの `append` コマンド行は、改行のない連続した文字列として入力してください。`initrd=` には SIA CD/DVD からコピーした、PXE サーバー上の `initrd.img` の場所を、`siaurl=` には状態ファイルの URL をそれぞれ指定してください。

PXE ターゲットから `siaurl=` 引数を削除することで、ネットワークからインストールをブートし、手動 (有人) インストールを実行することもできます。

3. PXE サーバーから SIA PXE イメージをブートして、無人インストールを開始するには、[25 ページの「PXE サーバーから SIA をブートする」](#) に示されたステップに従います。

無人ネットワークインストールの進捗状況の監視

無人ネットワークインストールを監視することによって、インストールの進捗状況、およびインストール時に問題が発生した場合に表示される診断メッセージを表示することができます。

以下の 4 つの無人ネットワークインストールの監視方法があります。

- システムコンソールでのメッセージの表示
- 仮想コンソールまたはセキュアシェル (SSH) 接続でのメッセージの表示
- 仮想ネットワークコンピューティング (VNC) ビューアでのメッセージの表示
- シリアルコンソールでのメッセージの表示

仮想コンソールまたは VNC ビューアを使用して、無人ネットワークインストールを監視する場合は、**root** および **VNC** のパスワードを設定する必要があります。

このセクションで説明するトピックは以下のとおりです。

- [36 ページの「root および仮想アクセスのパスワードのセットアップ」](#)
- [37 ページの「システムコンソールの使用」](#)
- [38 ページの「仮想コンソールまたはセキュアシェル \(SSH\) 接続の使用」](#)
- [38 ページの「VNC ビューアの使用」](#)
- [38 ページの「VNC ビューアを使用して、接続を確立する」](#)
- [39 ページの「シリアルコンソールを使用して、接続を確立する」](#)

root および仮想アクセスのパスワードのセットアップ

パスワードは、CD または PXE からブートする際に手動で、あるいは以下の PXE ブートターゲットで、ブート引数としてインストーラに提供されます。

```
/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```

仮想コンソールまたは仮想ネットワークコンピューティング (VNC) ビューアを使用してインストールを監視するには、パスワードを設定する必要があります。

注 - CD からブートする際には、boot: プロンプトの表示に注意する必要があります。これは、5 秒間しか表示されません。boot: プロンプトが表示されたら、任意のキーを押して、パスワード引数を入力することができます。

セキュリティを最大化するためには、CD boot: プロンプトで以下のパスワード引数を使用します。

■ `rootpw=des-encrypted-password`

`rootpw=des-encrypted-password` 引数は、プレーンテキストパスワードをネットワークを介して渡さずに、PXE ブート時の SSH 遠隔アクセスを有効にします。

次の Perl スクリプトを使用して、`des-encrypted-password` を作成します。

```
# perl -e 'print crypt("password", "42")."\n"'
```

出力された文字列が、「`rootpw=`」引数の後ろに入力する文字列になります。

■ `vncauth=hex-string`

この引数は、VNC アクセス用のパスワードを有効にします。

リモート VNC 認証ファイルは、8 バイナリバイトです。`vncpasswd` でこの 8 バイトを作成し、ここに入力する `hex-string` に変換します。

次のコマンドを使用して、`hex-string` を作成します。

```
# vncpasswd /tmp/vncauth
# od -t x1 /tmp/vncauth | awk '/0000000/ {print $2 $3 $4 $5 $6 $7 $8 $9}'
```

出力された文字列が、「`vncauth=`」引数の後ろに入力する文字列になります。

■ `ptextpass=password`

「`ptextpass=password`」引数によって、`root` パスワードおよび VNC パスワードの両方で使用するプレーンテキストパスワードを渡します。

システムコンソールの使用

通常、システムコンソールは、無人ネットワークインストール時にスプラッシュ画面を表示するため、コンソールメッセージが表示されません。スプラッシュ画面を閉じてコンソールメッセージを表示するには、Esc キーを押します。

仮想コンソールまたはセキュアシェル (SSH) 接続の使用

インストールインタフェースでは、Linux カーネルを実行して仮想コンソールアクセスを提供します。仮想コンソールにアクセスするには、Ctrl-Alt-F2 を押します。追加のコンソール画面を表示するために、Ctrl-Alt-F3 および Ctrl-Alt-F4 を使用することもできます。

仮想コンソールにログインする前に、root パスワードを、インストーラへのブート引数として設定する必要があります。詳細については、[36 ページの「root および仮想アクセスのパスワードのセットアップ」](#)を参照してください。

仮想コンソールへの接続の確立後は、VNC サーバー IP アドレスを判断して、標準ログファイルを表示することができます。または、VNC IP アドレスを使用して、シリアルコンソールで SSH 接続を確立することもできます。

VNC ビューアの使用

無人ネットワークインストールを実行する場合、デフォルトでは、仮想ネットワークコンピューティング (VNC) は有効になっています。無人ネットワークインストールを実行する場合、「display=vnc」をブート引数として追加することによって、VNC を有効化できます。

▼ VNC ビューアを使用して、接続を確立する

以下のステップに従って、VNC ビューアを使用して接続を確立します。

1. [36 ページの「root および仮想アクセスのパスワードのセットアップ」](#)に示すように、パスワードを設定します。
2. SIA スプラッシュ画面の表示後すぐに Esc キーを押します。
コンソールメッセージが表示されます。VNC サーバーの起動後に、メッセージが表示され、VNC を使用して接続する IP アドレスが提供されます。
3. ステップ 2 で表示された IP アドレスを使用して、VNC ビューアに接続します。

例:

```
# vncviewer IP_address:1.0
```

4. プロンプトが表示され、ステップ 1 で設定したパスワードを入力すると、VNC が起動します。

手動インストールを実行すると、インストーラのインタフェースが表示されます。インストールの進行に従って、自動的に画面が先に進みます。VNC 画面は入力可能な状態になっているため、VNC ウィンドウで何らかの操作をすると、インストールが中断されます。

▼ シリアルコンソールを使用して、接続を確立する

以下のステップに従って、シリアルコンソールを使用して接続を確立します。

1. ブート引数 `console=ttyS0,9600` を使用し、コンソール出力をシリアルコンソールにリダイレクトします。

これにより、デバッグ時にスクロールバックしてメッセージを表示できるようになります。VGA コンソールへの出力は無効になります。

2. シリアルポートからシリアルコンソールをセットアップします。

シリアルコンソールの使用方法の詳細については、サービスプロセッサ (*Lights Out Manager*) のドキュメントを参照してください。デフォルトのセットアップでは、サービスプロセッサは、シリアルポートによって使用できます。

3. サービスプロセッサにログインしてから、以下のコマンドを入力してコンソールを起動します。

```
# start /SP/console
```

4. システムをリブートします。

5. ネットワークブートオプションを選択します。

6. SIA ターゲットを選択してから、無人ネットワークインストールの進捗状況を監視します。

SIA のブート後、シリアルコンソールで黒の背景に黒のテキストが書き込まれる状態のままになることがあります。これが発生した場合は、端末をリセットして、テキストを表示します。

無人ネットワークインストールのデバッグ方法の詳細については、[42 ページの「無人インストールの問題のデバッグ」](#)を参照してください。

第4章

SIA のトラブルシューティング

この章では、SIA エラーメッセージ、SIA インストールログファイル、および無人ネットワークのデバッグ手順について説明します。

本章のトピックは以下のとおりです。

- [41 ページの「エラーメッセージ」](#)
- [42 ページの「SIA インストールログファイル」](#)
- [42 ページの「無人インストールの問題のデバッグ」](#)

エラーメッセージ

Sun Installation Assistant にエラーまたは予期しない状態が発生した場合には、エラーメッセージが生成されます。次に、エラーメッセージの例を示します。メッセージはさまざまですが、いずれもわかりやすい内容です。

You have inserted Disc 3 but the system requires Disc 2. Please insert Disc 2. (ディスク 3 が挿入されましたが、システムではディスク 2 が必要です。ディスク 2 を挿入してください)

サポートされていないバージョンの Linux または Microsoft Windows の Sun Installation Assistant を使用した場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

The media you have provided is not a release that is supported by Sun Microsystems, Inc. on this platform. You cannot use the Sun Installation Assistant to install this product and associated software. (挿入したメディアのリリースは、このプラットフォームの Sun ではサポートしていません。Sun Installation Assistant を使ってこの製品および関連ソフトウェアをインストールできません)

このような場合は、次のいずれかを実行します。

- サポートされた製品をインストールするには、「Back (戻る)」をクリックしてから適切なメディアを挿入します。
- サポートされていない製品をインストールするには、「Exit (終了)」をクリックして Sun Installation Assistant を終了してから、システムをリブートします。これで、SIA を使用せず、サポートされていない製品を通常どおりインストールできます。

サポート対象のオペレーティングシステムのリストについては、[4 ページ](#)の「サポート対象オペレーティングシステム」を参照してください。

SIA インストールログファイル

Sun Installation Assistant のログファイルは、新たにインストールしたシステムのルートディレクトリに書き込まれます。

ログファイルを確認するには、ファイル `SunInstallationAssistant.log` (Linux の場合は `/root` に、Windows の場合は `C:` にあります) を参照してください。

無人インストールの問題のデバッグ

このセクションでは、無人ネットワークインストールのセットアップ時に発生する可能性がある、以下のよくある問題のデバッグ手順について説明します。

- [42 ページ](#)の「PXE イメージがブートしない」
- [43 ページ](#)の「SIA ブートが開始された後に停止する」
- [44 ページ](#)の「VNC パスワードが設定されない」

PXE イメージがブートしない

PXE イメージがブートしない場合は、以下を実行してください。

1. DHCP および TFTP サーバーエリアと、`initrd.img` および `vmlinuz` ファイルの完全性を確認します。
2. SIA CD で提供されている PXE サンプル設定 (`boot/isolinux/isolinux.cfg`) を参照することによって、カーネルブート引数が正しいことを確認します。

3. SIA 状態ファイル、Kickstart ファイル、または AutoYaST ファイルの URL が正しいことを確認します。URL が正しいかどうかを判断するには、以下の手順に従います。
 - a. コマンド `wget URL` で、URL をテストします。
 - b. DNS が正常に機能していることを確認するか、ホスト名の代わりに IP アドレスを使用します。
 - c. 以下の表で、発生する可能性がある URL エラーについて確認します。

問題	現象
状態ファイルの URL (<i>siaurl</i>) が正しくありません。	状態ファイルの URL (<i>siaurl</i>) が正しくない場合、インストールがハングアップしたように見えます。 コンソールで、VNC 情報の後に表示される次のエラーメッセージがないかを確認します。 <code>Unable to fetch unattended statefile: URL</code>
状態ファイルの URL (<i>siaurl</i>) の <code>InstallLoc</code> が正しくありません。	エラーメッセージを表示することなくシステムが再起動し、コンソールで、再起動前に次のようなメッセージが表示されます。 <code>Can't MD5 ...</code>
状態ファイルの URL (<i>siaurl</i>) の <code>Kickstart</code> エントリが正しくありません。	インストールがハングアップしたような状態になり、コンソールで以下のメッセージが表示されます。 <code>apit-magic: run: /installer/..."</code>
URL ファイルのパラメータが正しくありません。	VNC に接続すると、無人ネットワークインストールが停止し、入力待ちの状態になります。

SIA ブートが開始された後に停止する

SIA によって使用される `initrd.img` ファイルは、100 M バイトを超えています。Solaris TFTP デーモンは、このイメージのサイズをサポートできません。

SIA がブートを開始した後に、空白画面で停止して、タイムアウトエラーメッセージが表示された場合は、異なる OS で TFTP サーバーに接続してください。

VNC パスワードが設定されない

VNC パスワードが設定されなかった場合は、コンソールに以下のメッセージが表示されます。

```
mv /dev/tty /dev/tty-node
ln -s /proc/self/fd/0 /dev/tty
echo password
/usr/X11R6/bin/vncpasswd.real /installer/vncpasswd
echo password
They don't match. Try again.
```

これは、タイミングの問題です。この問題を解決するには、システムを再起動してから、インストールを再開します。

付録 A

USB フラッシュドライブでの SIA の 使用

この付録では、SIA をブートするために USB フラッシュドライブ (USB メモリー、USB キーなど) を準備する方法、および SIA USB フラッシュドライブをブートして OS インストール処理を開始する方法について説明します。USB フラッシュドライブを使用しない場合は、このセクションはスキップしてください。

要件

- SIA バージョン 2.0.114 以降 (USB フラッシュドライブサポートは、これ以前のバージョンの SIA では利用できません)
- 1G バイト以上の USB 2.0 フラッシュドライブ
- Windows XP または Linux を実行している、USB 2.0 対応ポートを搭載したシステム
- インターネットアクセス (必要なソフトウェアをダウンロードするため)
- SIA を使用する Sun サーバーには、USB 2.0 対応ポートが搭載されている必要があります

SIA USB フラッシュドライブの準備とブートには、以下のステップが必要になります。

- [46 ページの「ソフトウェアの入手」](#)
- [47 ページの「USB フラッシュドライブの準備」](#)
- [49 ページの「BIOS パラメータの設定および SIA USB フラッシュドライブからのブート」](#)

ソフトウェアの入手

このセクションでは、`syslinux` および `SIA` ソフトウェアの入手場所について説明します。`SIA` をブートするために `USB` フラッシュドライブを準備するには、`syslinux` ソフトウェアが必要です。`Windows` または `Linux` マシンを使用して、`syslinux` および `SIA` ソフトウェアをダウンロードして、ブートのために `USB` フラッシュを準備します。

▼ `syslinux` および `SIA` ソフトウェアを入手する

注 – `USB` フラッシュドライブバージョンの `SIA` を作成するためのサポートは、`SIA` バージョン `2.0.144` で導入され、`Sun` ダウンロードサイトでダウンロード可能なパッケージとして提供されています。これより前のバージョンの `SIA` では、`USB` フラッシュドライブメディアからの `SIA` の実行はサポートされません。

1. 以下の `Web` サイトで、`syslinux-3.52` 以降をダウンロードします。

<https://sun.com/downloads>

使用しているサーバーのダウンロードページに移動します。ダウンロード可能なファイルのセクションで、`syslinux-3.52.zip` 以降を選択して、`Windows XP` または `Linux (Red Hat または SUSE)` システムの適切なファイルフォルダにダウンロードします。

2. 以下の `Web` サイトで、`SIA-2.0.144` 以降のブート可能フラッシュドライブイメージアーカイブファイルをダウンロードします。

<https://sun.com/downloads>

使用しているサーバーのダウンロードページに移動します。ダウンロード可能なファイルのセクションで、`SIA-2.0.144.zip` (またはそれ以降のバージョンが利用可能な場合はそのファイル) を選択して、`Windows XP` または `Linux (Red Hat または SUSE)` システムの適切なファイルフォルダにダウンロードします。

USB フラッシュドライブの準備

このセクションでは、サーバーで USB フラッシュドライブを使用して SIA ソフトウェアを実行するために USB フラッシュドライブを準備する方法について説明します。USB フラッシュドライブの準備には、Windows または Linux システムを使用できます。Windows システムと Linux システムでは、手順が異なります。両方の手順を以下で説明します。

▼ Windows XP システムで USB フラッシュドライブを準備する

1. ダウンロードした `syslinux-x.xx.zip` アーカイブファイルの内容を展開 (unzip) します。
ここで、`x.xx` は、Syslinux のバージョン番号です。
2. USB フラッシュドライブを USB 2.0 ポートに挿入します。



注意 – データ損失の可能性があります。フォーマットによって、ドライブのすべてのデータが削除されます。ドライブをフォーマットするには、正しいドライブを必ず選択してください。

3. Windows ディスクフォーマットプログラムを使用して、FAT32 で USB フラッシュドライブをフォーマットします。
4. 以下の `syslinux` 実行可能ファイルを実行します。

`path\syslinux\win32\syslinux.exe X:`

ここで、`path` は、`syslinux` を展開したフォルダで、`X` は、USB フラッシュドライブのドライブ文字 (例: `A`、`B` など) です。

これによって、ファイル `ldlinux.sys` がドライブに作成されます。

5. ダウンロードした `SIA-x.x.xxx.zip` アーカイブファイルの内容を、USB フラッシュドライブに展開 (unzip) します。
ここで、`x.x.xxx` は、SIA のバージョン番号です。展開が終了すると、フラッシュドライブには以下のファイルがあります。

```
syslinux.cfg
initrd.img
prerd.img
ldlinux.sys
```

6. USB フラッシュドライブを取り外すには、「Safe to Remove Hardware (ハードウェアを安全に取り外すことができます)」アイコンをクリックしてから、システムからフラッシュドライブを取り外します。

これで、USB フラッシュドライブは、SIA をブートする準備ができました。SIA USB フラッシュドライブを使用して OS インストールを開始する場合は、[49 ページ](#)の「[BIOS パラメータの設定および SIA USB フラッシュドライブからのブート](#)」を参照してください。

▼ Linux (Red Hat/SUSE) システムで USB フラッシュドライブを準備する

1. `syslinux-x.xx.zip` アーカイブファイルの内容を展開 (`unzip`) します。
ここで、`x.xx` は、Syslinux のバージョン番号です。例：

```
# unzip syslinux-3.52.zip
```
2. USB フラッシュドライブを正常な USB 2.0 ポートに挿入します。
3. `fdisk` を使用して、すべてのパーティションを削除して、新規ブート可能 FAT32 パーティションを作成します。

```
# fdisk /dev/sdX
```


ここで、`X` は、USB フラッシュドライブのドライブ文字 (例: `/dev/sda` や `/dev/sdb`) です。
4. `mkdosfs` を使用して、DOS ファイルシステムを作成します。

```
# mkdosfs /dev/sdX
```
5. `syslinux/unix` ディレクトリに移動します。

```
# cd path/syslinux/unix
```


ここで、`path` は、`syslinux` を展開したフォルダです。
6. `syslinux` を実行します。

```
# syslinux /dev/sdX
```


ここで、`X` は、USB フラッシュドライブのドライブ文字 (例: `/dev/sda` や `/dev/sdb`) です。
7. ドライブをお好みのマウントポイントにマウントします。

```
# mount -t msdos /dev/sdX /mnt
```


ここで、`X` は、USB フラッシュドライブのドライブ文字 (例: `/dev/sda` や `/dev/sdb`) です。

8. SIA-x.x.xxx.zip アーカイブファイルの内容を、USB フラッシュドライブに展開 (unzip) します。

ここで、x.x.xxx は、SIA のバージョン番号です。展開が終了すると、フラッシュドライブには以下のファイルがあります。

```
syslinux.cfg  
initrd.img  
prerd.img  
ldlinux.sys
```

9. USB フラッシュドライブをアンマウントします。

```
# umount /dev/sdX
```

ここで、X は、USB フラッシュドライブのドライブ文字 (例: /dev/sda や /dev/sdb) です。

10. クライアントマシンからフラッシュドライブを取り外します。

これで、USB フラッシュドライブは、SIA をブートする準備ができました。SIA USB フラッシュドライブを使用して OS インストールを開始する場合は、次のセクション「[BIOS パラメータの設定および SIA USB フラッシュドライブからのブート](#)」を参照してください。

BIOS パラメータの設定および SIA USB フラッシュドライブからのブート

このセクションでは、サーバーで BIOS パラメーターを設定して、USB フラッシュドライブから SIA をブートする方法について説明します。このセクションの手順は、OS をインストールするサーバーに対してのもので、

注 – システムコンソールのブートメッセージが表示できる準備ができていない必要があります。

▼ BIOS パラメータを設定して SIA USB フラッシュドライブからブートする

1. SIA USB フラッシュドライブを使用可能な USB 2.0 ポートに挿入します。
2. システムを再起動して、BIOS プロンプトの表示を監視し、プロンプトが出されたら、BIOS セットアップに入ります。
BIOS セットアップ画面が表示されます。
3. 「Advanced」->「USB Configuration」->「USB controller」セットアップ画面に移動して、「High Speed」モードを選択します。
4. 「Boot」->「Hard Disk」セットアップ画面に移動して、USB フラッシュドライブを最初のブートデバイスに設定します。
USB フラッシュドライブは、最初にリストされたブートデバイスである必要があります。
5. 変更を保存して SIA をブートするには、「Save (保存)」と「Exit (終了)」を選択します。
BIOS セットアップが終了して、システムが、SIA USB フラッシュドライブからブートします。

注 - オペレーティングシステムのインストールのために SIA USB フラッシュドライブを使用した場合は、インストールを終了するためには、OS 配布メディアからサーバーハードディスクに OS を初期インストールした後に、再起動する必要があります。この時点で、サーバーがハードディスクからブートしてインストールが終了できるようにするために、USB フラッシュドライブを取り外すか、BIOS 設定でブート順序を下げる必要があります。

6. SIA の使用方法については、[第 2 章](#)に進んでください。

付録 B

Sun Fire X4500 サーバーでの Linux ブートデバイスの特定

この付録では、SIA を使用して Linux をインストールする際に Sun Fire X4500 サーバーでブートドライブを特定する方法について説明します。Sun Fire X4500 を所有していない場合は、この付録はスキップしてください。

要件

第 2 章で説明されているステップを、SIA が Linux ネイティブ OS インストーラを起動するところまで、すでに完了している必要があります。

Linux インストール時に Sun Fire X4500 でブートデバイスを特定する方法

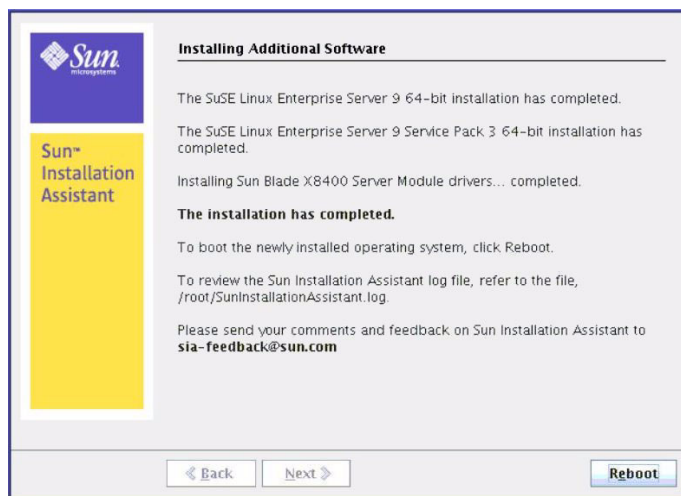
SIA が Linux ネイティブ OS インストーラを起動した後は、Sun Fire X4500 サーバーのブートデバイスを特定する必要があります。

▼ Linux インストール時に Sun Fire X4500 でブートデバイスを特定する

1. Linux (RHEL または SLES) を Sun Fire X4500 にインストールする場合は、正常なインストールを行うためには、以下のいずれかの OS 固有のステップ (RHEL 用または SLES 用) を実行する必要があります。

- **RHEL Linux** のインストールの場合: GRUB ブートローダーの設定。
 - i. 「Boot Loader Configuration (ブートローダー設定)」ダイアログで、「Configure advanced boot loader (詳細ブートローダー設定)」オプションチェックボックスを選択してから、「Next (次へ)」をクリックします。
 - ii. 「Advanced Bootloader Configuration (詳細ブートローダー設定)」ダイアログで、「Change Drive Order (ドライブ順序の変更)」ボタンをクリックします。
 - iii. 「Edit Drive Order」ダイアログで、「/dev/sdy」を選択して上矢印キーでリストの最上部まで移動させてから (これには約 96 回クリックする必要があります)、「OK」をクリックします。
 - iv. 「/dev/sdy Master Boot Record (MBR)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
 - v. 完了するまで OS インストーラを続行します。インストーラプログラムが終了して、SIA の「Installing Additional Software (追加ソフトウェアのインストール)」ダイアログが表示されたら、[手順 2](#) に移動します。
- **SLES Linux** インストールの場合: インストール設定の変更。
 - i. 「Installation Settings (インストール設定)」ダイアログで、「Expert (エキスパート)」タブをクリックします。
 - ii. 「Expert (エキスパート)」タブで、「Change (変更)」ボタンをクリックします。
 - iii. 「Boot Loader Setting (ブートローダー設定)」ダイアログで、「Boot Loader Installation (ブートローダーインストール)」タブを選択します。
 - iv. 「Boot Loader Location (ブートローダーの場所)」セクションで、「Other (その他)」を選択します。入力フィールドに「/dev/sdy」と入力します。
 - v. 「Boot Loader Installation Details (ブートローダーインストール詳細)」ボタンをクリックします。
 - vi. 「Disk Order (ディスク順序)」リストボックスで、「/dev/sdy」を選択して上矢印ボタンでリストの最上部まで移動させます。完了後、「OK」をクリックします。
 - vii. 「Finish (終了)」ボタン (画面右下) をクリックします。
 - viii. 完了するまで OS インストーラを続行します。インストーラプログラムが終了して、SIA の「Installing Additional Software (追加ソフトウェアのインストール)」ダイアログが表示されたら、[手順 2](#) に移動します。

2. 「Installing Additional Software (追加ソフトウェアのインストール)」ダイアログで、表示された情報を確認します。



3. SIA メディアを取り出して、「Reboot (再起動)」ボタンをクリックします。

サーバーが再起動して、オペレーティングシステムのインストールが続行します。遠隔アップデートを選択した場合は、SIA は、Web から最新のファイルを取得します。そうではない場合は、OS 配布メディアのファイルを使用します。画面上の手順に従い、操作を促すプロンプトが表示されたら再起動を実行します。

4. OS インストールの完了後に、以下を実行します。

- SIA によってインストールされなかった、サーバーの追加ドライバをインストールして設定します。これによって、サーバーのインストールに関するドキュメントで説明されているように、インストールされたサーバーコンポーネントでサポートされた一連の機能 (ACPI、ビデオ、ネットワーク、大容量記憶装置など) が提供されます。使用可能なドライバのリストについては、SIA CD/DVD Readme.html ファイルおよびサーバーの「ご使用にあたって」を参照してください。
- Linux オペレーティングシステムのベンダーの Web サイトから、最新の Linux オペレーティングシステムのアップデートおよび修正をダウンロードして、インストールします。

索引

B

BIOS アップグレード, 2

O

OS インストール時に Linux ブートデバイスを特定するための X4500 サーバーの手順, 51

P

PXE インストール
RHEL または SLES Linux
手順, 25

PXE ベースの SIA を使用した、無人 OS インストール, 27

R

Red Hat Enterprise Linux、インストール
PXE ベースのネットワークからの遠隔メディア
の使用
手順, 25

S

SIA
Sun Fire X4500 サーバーで Linux ブートデバイ
スを特定するための補足手順, 51
USB フラッシュドライブサポート, 45

インストールの前提条件
ローカルまたは遠隔メディア, 9
サポート対象の OS, 4
メディアおよびアップデート, 3
機能とメリット, 2
最新バージョンの取得, 3
説明, 1

SIA のフラッシュドライブサポート, 45

SIA の作業リスト, 3

SUSE Linux Enterprise Server、インストール
PXE ベースのネットワークからの遠隔メディア
の使用
手順, 25

あ

アップグレード
システム BIOS およびデバイスファームウェア
, 2

アップデート
SIA の, 4
ドライバの, 4

い

インストール CD/DVD, 3
インストールメディア、ローカルおよび遠隔, 22
準備すべき事柄, 4
インストール方法、Sun Fire および Sun Blade サー
バー, 8

え

遠隔インストール, 8

お

オペレーティングシステム

SIA のサポート対象, 4

インストール

ローカルまたは遠隔メディアの使用, 9

追加のドライバおよびソフトウェア, 22

こ

コンパクトフラッシュ、OS インストール, 2

て

デバイスドライバ

アップデート, 4

ふ

ファームウェアアップグレード, 2

め

メディアインストールオプション (遠隔またはローカル), 8

ろ

ローカルメディアインストール, 8